

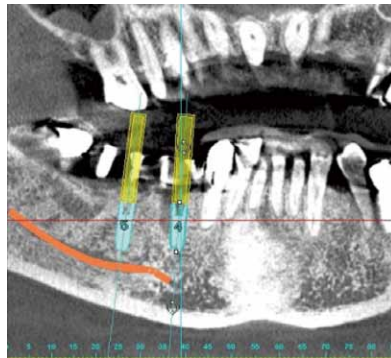
診療最前線

歯科口腔外科



歯科口腔外科と聞くと親しみを抜く科というイメージがあると思います。もちろん、開業歯科医院では対応が困難な親しらずを抜くことも歯科口腔外科診療の一つですが、当科では口の中や顎顔面領域のさまざまな疾患に対して治療を行っています。また、平成24年5月に「顎機能再建・インプラントセンター」を開設し、歯がなくなってしまう部位へのデンタルインプラントや腫瘍、外傷・骨髄炎

などで顎の欠損を生じた患者さんに3Dコンピュータシステム「Simplant（シンプラント）」を用いた再建手術などの高度医療を安全に提供しております。



3Dコンピュータシミュレーションシステム Simplant（シンプラント）

診療内容

【**歯性感染症**】歯性感染症とは、虫歯や歯周病が原因で細菌が周囲の組織まで波及してしまう疾患のことです。軽度であれば抗生物質を内服するだけで症状は改善しますが、顎や顔、咽頭部など広範囲に波及すると入院加療が必要となります。重篤な症例では

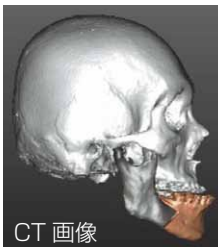
膿瘍切開や呼吸苦による気管切開を行うこともあります。早期に治療を行うことが大切です。



虫歯による炎症

【**顎変形症**】下顎前突症・上顎前突症・口唇口蓋裂などの顎変形症には、近隣の矯正歯科専門医と連携し、外科矯正部門を担当しています。

当科では、顎顔面外科手術シミュレーションソフト（Simplant



CT画像



作成した3D画像

顎顔面外科手術シミュレーションソフト（SimplantCMF）使用例：撮影したCT画像（左）から3D画像を作成し（右）、術前のシミュレーションを行います。

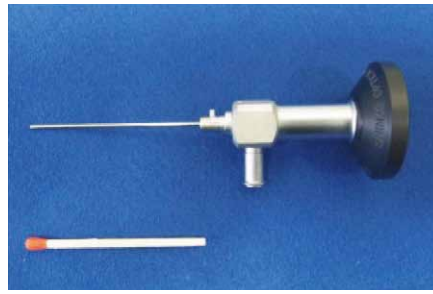
CMF）を用いてCT画像から3D画像を作成し、安全で確実に手術を行うため、治療計画の作成や分析、術前のシミュレーションを行っています。

この手術シミュレーションソフトは長野県内では当院を含め2施設にしかありません。

【**顎関節症**】顎関節症とは、①顎から「ガクガク」音がする関節雑音、②「口が開かない」など開口障害・顎運動障害、③「食事をする時に顎が痛い」などの顎関節や筋の痛みなどの症状を主とする疾患です。顎関節症の治療は、リハビリテーション科と連携した理学療法や、マウスピース、薬物治療などの保存的治療を3〜6ヶ月行うことで多くの方は症状が消退します。保存的治療で治らない場合は（全体の10〜20%）、外科的治療に移行する場合があります。外科的治療の第一選択として「顎関節洗浄療法」を行います。当科では、非常に細い内視鏡（直径1.2mm）を用いるため、外来で局所麻酔下にて施行可能です。術

後 1 ～ 6 ヶ月間に 70 ～ 85% の患者さんの症状が消退します。

長野県では、この微細関節鏡による顎関節手術が可能な施設は当院のみです。



細径硬性関節鏡 (直径 1.2mm)

【頭頸部腫瘍 (口腔癌・良性腫瘍)】

口腔癌は癌全体の 1% 程度ですが、癌患者全体の増加に比例して年々増加してきています。口腔癌の 5 年生存率は、初期である I 期・II 期の場合で 90% 前後といわれています。病状が進み III 期になると 60 ～ 75% となります。そして III 期から IV 期に至ると更に生存率は低くなり、35% 以下に低下します。つまり、いかに早い時点で口腔癌を発見するかが最も重要になります。



口腔癌

受診は歯科治療のみならず、口腔内全体の病変を早期に見つけることにつながります。かかりつけ歯科医院を作り、定期的な健診をお勧めします。

【顎顔面領域の外傷】

顎顔面の裂傷、歯の脱臼などの外傷に対する救急対応を行っています。救急外来で特に多くみられる外傷は、歯の脱臼や骨折です。歯の脱臼は受傷から来院までの時間、歯牙の保存状況が大切で、保存方法としては牛乳を用いることが有効です。

顎顔面の骨折に対しては、チタン製のプレートを使用した手術を行い、治療期間の短縮に努めています。

ます。

口腔癌の多くは歯科医院で発見されていますので、定期的な歯科医院



脱臼した歯



保存液として有効な牛乳

【口腔粘膜疾患】

「口腔粘膜疾患」とは、口の中の粘膜 (歯肉、舌、頬) に発症する病気です。代表的なものは口内炎ですが、そのほかにも癌に移行しやすい前癌病変といわれる扁平苔癬や白斑症があります。このような疾患は薬などによる保存療法だけでなく必要に応じて外科的に切除することもあります。また、舌がピリピリ痛くなる舌痛症や口がいつも乾いてしまう口腔乾燥症 (ドライマウス) など内科などと連携し対応しております。



上：扁平苔癬、下：白板症

Er:YAG レーザー (エルビウムヤグレーザー) 導入

Er:YAG レーザーは、組織の表面のみに作用するため発熱が少なく、痛みが非常に少ないレーザーです。疾患によっては注射麻酔をする必要性が少なく、無麻酔または塗るタイプの麻酔 (表面麻酔) で治療が可能です。また、他の歯科用レーザーより周囲への熱の作用が極めて少ないため、手術で切開した後も傷が早くきれいに治ります。



診療スペースを半個室にし、プライバシーにも配慮いたしました。また、治療用ユニットの増設により効率良く診療を行い、患者さんの待ち時間短縮につなげてまいります。

**歯科口腔外科外来が拡張
治療用ユニット (診察台)
が増設**